

第351号

発行所

丸瀬布ひらやま医院

編集責任 平山典保

TEL (46) 3140

週刊院潮



在宅訪問診療を積極的にご利用ください

開院より遠軽町で唯一の在宅療養支援診療所として在宅訪問診療に取り組んで来ました。病気や障害などで通院困難な方々に対し、訪問看護や介護サービスとの連携で訪問診療は拡大してきています。この数年、

遠紋医療圏での入院ベッド数減少が続いており、3年前の統計でも遠紋医療圏内の医療機関で入院できていないのは57%弱で、その後の病床数減少からは更に低くなってきていると思われま



志田ルリさん満102歳おめでとうございます

数近くが町外に入院せざるを得なくなっています。他方、要介護高齢者の入院や入所施設のベッド数は増えていません。今後、在宅訪問診療の必要性はますます高まっていくでしょう。いつまでも住みなれた場所

志田ルリさん102歳おめでとう

訪問診療中の遠軽町在住、志田ルリさん(大正12年1月16日生まれ)が1月に満102歳の誕生日を迎えられました。ユーモアのセンス抜群で年齢の話をする

きの秘訣は、あんまりくよくよ考えないこと、好き嫌いをなく食べることだそうです。ご家族の話では「よく噛んで食べている、家族のなかで一番しっかり咬んで食べている」とのこと。今でも全部自分の歯だそう

ひき続き新型コロナウイルス感染症対策を。新型コロナウイルス感染症はひき続き全国的には緩やかな減少傾向に転じています。北海道での流行も減少傾向で依然として終息したとは言えませんが(写真左)。当院では毎週、地域で散発的に感染者が出ており、ひき続き感染対策の徹底をお願い

院長のひとり言(その307) さすがに4月に入ってから雪は消えるのも早そうです。湧別川畔の木々の芽がふくらみ始め、オホーツクの春の近さを告げています。職員家族も新年度で進学、進級と慌ただしい春ですが子どもたちの成長も楽しみです。丸瀬布ひらやま医院は開院8年目、職員の変動はなく、ベテラン揃いで安心の新年度を迎えています。今年度は仲間たちと力を上げて地域のみなさんの期待に応えられる医療活



玄関ロビーに 素敵な花が 季節の変化は速いものですが、先取りをするかのように医院玄関ロビーに桜の花が飾られました。いよいよ春本番、いつも素敵な花を飾ってくださっている地元華道家の木村恵子さんには感謝です。(写真上)